来たる参院選で真の民主政治に向けた歴史的転換を果たすために

私、松田学は、来たる７月の第 26 回参院選において参政党より全国比例に立候補しており、ここ数か月、街頭演説や集会などの活動で飛び回ってきましたが、戦後初めて、国民運動の盛り上がりによる真の参加型の民主政治が始まりそうな勢いです。

５月に開催された参政党の政治資金パーティー「イシキカイカクサミット」ではチケットが通常通り２万円であるにも関わらず、動員もせずに、5,000 人以上が参加、これも動員などしていない日頃の街頭演説でも、1,000 人超えが何度も起こる盛り上がり方です。

私が神谷氏とで二年前に結党した参政党の党員党友も、参院選の公示日である６月 22 日までの時点で５万人を超え、一日 1,000～1,500 人ずつ増加している状況が続いています。

今度の参院選では、私を含めた５人の全国比例候補者（松田学、吉野敏明、赤尾由美、武田邦彦、神谷宗幣）が立つ予定ですが、全選挙区（地方選挙区 45）に候補者を立てることになりました。これは国政に初めて挑戦する新党としては前例がないと思います。

総勢 50 人の立候補を可能にしたのが、広く国民から集まった数億円にのぼる寄付です。当選すれば自分の最大の仕事は次の選挙という職業政治家ではなく、志と使命感に溢れた普通の国民が普通に国政に出る仕組みを持つ政党として、良い人に選挙に出てもらうには、党が供託金と最低限の選挙費用を負担しなければなりません。

これは、「公認を受けたいならおカネを」という例が多い他党とも異なる点です。

党員たちも、候補予定者たちも、いわゆる職業政治家とは異なる、ごく普通の社会人や主婦の方々です。

このままでは子どもたちに良い日本を残せなくなる、この日本の国をなんとかしようとの思いで、危機感を我が事として抱きながら、立ち上がってくれています。

この前代未聞だらけの参政党現象、何のバックも利権もありません。多くの国民の期待と熱意だけで、ここまで来ています。

コロナで「何かおかしい」という気付きが国民にじわじわと広がり、すでに起こっていた意識変化が、「投票したい政党がないから自分たちで作ってみた」の精神で立党したこの党の急拡大という形で顕在化したのかもしれません。

日本国民の間で何かが起きている、もしかすると、政治が本当に変わるかもしれない…今度の参院選が戦後政治史のなかで歴史的な意味を持つものとなるよう、現在、私も参政党の共同代表として全力を挙げて選挙に臨んでいるところです。

この参政党の立場や政策については同党のホームページ（「新しい国づくり十の柱」など）をご覧いただければと思いますが、政策の策定を事実上担ったのは私でしたので、「松田プラン」やブロックチェーン革命などが盛り込まれているのは言うまでもありません。

その他、同党は、コロナ禍(及びウクライナ戦争)でも正体を現した「グローバリズム全体主義」に対抗して、「自由社会を守る国民国家」という新しい軸を打ち出しています。

個別の政策の中では、政府の誤ったコロナ政策の犠牲になった飲食、観光の再興を、地方の伝統文化の維持という観点からも唱えています。

また、全体的に、これまでの「右か左か」という軸ではなく、「前か後ろか」という軸になるべき時代にあって、何事も、世界一の歴史や文化を営んできた日本の国を起点に物事を組み立てる立場をとっています。

今回の参院選で私どもが躍進できれば、確実に、国民が納得できる政治へと日本の政治を変え、国益を守り世界に大調和を生む立場を国会に築くことになります。

参政党へのご支援、よろしくお願いいたします。